



馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第4号〉

風の色



歌川広重「東都名所 真崎雪晴之図」
天保3(1832)34頃

肌を刺すような冷たい大気のなか、隅田川では材木を運ぶ筏や簾を降ろした屋根船が往来しています。対岸では行商人が雪を踏みしめて歩を進めているところです。彼らの蓑や笠、また鳥居の下で女性が傘を手にするところを見ると、さきほどまでちらちらと雪が降り続けていた様子。しかし、いまはもう雪も降り止み、ほんのりと桃色に染まった空が顔を覗かせています。

隅田川対岸、向かって左の鳥居が真崎稲荷社です。周囲に茶屋が軒を連ね、なかでも田楽が名物でした。

右側にあるやや小さめの鳥居は酒井雅楽頭の下屋敷の隣にあった明神社でしょう。

この辺り一帯は四季を通じて景勝地として有名な場所です。屋根船にも雪見をしやれこんだ客が乗っているのではないのでしょうか。

東都、つまり江戸の名所を描いたこのシリーズは、天保3年から5年頃につくられました。天保3年といえば「東海道五拾三次之内」を出版しはじめた年にあたり、「名所絵」の広重としての存在感が高まっていった時期です。広重自身、精力的かつ意欲的にとり組んだ様子が窺えます。

雪晴のすつきりとした明るさを感じさせる好ましい作品に仕上がっています。静寂な冬景色のなかでゆつたりと船が進む音と行商人の雪を踏みしめる音だけが聞こえてきそうです。

この作品は、平成15年2月6日(木)から始まる「三人の広重展」に出品されます。

入館者数20万人達成

去る9月27日、入館者数・20万人を達成しました。20万人目となったのは、宇都宮市から訪れた駒場幸子さんです。駒場さんには、記念品として開館二周年記念特別展「江戸の旅東海道五拾三次展」の図録と「名所江戸百景」の復刻版、小砂焼を贈呈しました。

駒場さんは、「驚きました。広重美術館に来るのは初めてですが、年に一度開いている兄弟会のいい思い出になりました。」と話されていました。

また、19万9千9百99人目と20万1人目となった河内町の平野英夫さんと平野朱実さんにも記念品を贈呈しました。前



20万人目の駒場幸子さん（中央）

後賞のお二人と20万人の駒場さんはご兄弟ということでした。

美術館の入館者は、平成12年11月にオープンしてから平成13年6月に10万人、その年の12月に15万人、そして、開館から2年を待たずに20万人を越えたことになります。

「ピカソの絵」「広重の絵のしし」が分かった講演会

「友の会」会員 藤田 芳輝（馬頭町）
平成12年馬頭町広重美術館が開館して二周年目を迎え、20万人の入館者があつた。

地方の美術館では稀なる入場者数であるということ、馬頭町広重美術館は何か人を魅するものがあると思われる。

開館一周年記念特別展で、県立美術館特別研究員竹山博彦氏の講演会が「近代的視点の変容」と題して行われた。

その中で、日本画の視点は目に入る範囲で、目線より下の方に重点を置いている。大地を見つめる日本人の生活の中から生まれたこと。また、外国の視点は写真的視点―目を固定した目に入る景―、その中で、ピカソは多視点で絵を作成したとの話、私には難解なピカソの絵が腑然ながら理解できるように思えた。

二周年記念特別展では、千葉市美術館上席学芸員浅野秀剛氏による「広重名所絵のしし」と題しての講演会があった。広重の絵は、視点は低め、広角ぎみに

自然な遠近感で統一感を表現、構想の工夫では、名所絵の必須要素の取り込み（モティーフの選択）、そして、陰影表現、デザイン的な色面布置、景と人との融和、揃物としてのまとまり・変化等あげての話であった。

まさに、広重の絵は現代に於いても魅力的である。と共に、当時の人々の風俗や暮らしを垣間見、その姿を想像する楽しさ人も人を引きつける大きな要因であると思われる。

「私の小さなボランティア」

「美術館ボランティア」 笠井鈴代（馬頭町）
私は毎日をなんとなく過ごしてしまっていて、これでよいのかと迷っていた時に、目にとまったのがCTB放送、「広重美術館のボランティア募集」の文字でした。

元来、人前に出るのを好まない私ですが、何か出来ることはないのかと思ひ、絵の知識もないしと躊躇しながらも、美術館に電話をしてみました。「大丈夫です。是非お願いします。」とのお答えでしたので、やってみようと思い参加しました。

養成講座も終わってしまつてからのことでした。午前中だけのわずかな時間の緊張。無知な私ですので、お客様からの質問にドキドキ。学芸員さんのところに走り助けを求めたり、ある時は知識人に

なった気分でした。2年が瞬く間に過ぎました。

だんだん、ボランティアの人が少なくなっていく中で、私のような者でも、微力ながら役に立っているのかなあと考えています。わずかな時間でも、多くの方々と接し仲間も出来、時には「大変ですね。ご苦労様ですね。」と声をかけて下さるお客様の言葉が嬉しく感じられます。

私は、こんな素晴らしい美術館への多くのお客様の訪れを願うと同時に、出来るだけこのボランティアを続けていきたいと考えています。身近に文化を感じられることを幸せに思ひながら。

美術館の利用案内

●開館時間／午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

●休館日／月曜日・祝日の翌日（祝日の翌日が土、日曜日の時は開館）年末年始（12月28日～1月4日）

※展示替えのための臨時休館があります。

●観覧料（企画展）

一般／500円（450円）

高・大学生／300円（270円）

小・中学生／100円（90円）

（一）内は20名以上の団体1人あたり。

※65歳以上の高齢者・身障者割引があります。特別展を除く。

※特別展の場合は、別途になります。小学生未満は無料です。

友の会有効期間変更のお知らせ

美術館友の会有効期間が、変更となりました。有効期間は、加入日から翌年の前月末日までの1年間となります。

今年もぜひ、お誘い合わせの上ご入会・更新下さいませよう、お待ちしております。

会費

一般会員

一般／年額 3,000円

学生／年額 1,500円

特別会員

個人／年額 10,000円

法人／年額 30,000円

特典

●特別展・企画展が無料で何回でも観覧できます(特別会員は同伴2名まで可)。

●友の会主催の見学会・講演会・講座等に参加できます(特別会員は同伴2名まで可)。

●会報・展覧会スケジュール等の案内などを送ります。

●会員証でミュージアムショップの商品割引が受けられます(除外部あり)。

●広重ほか美術館所蔵作品入り名刺の幹旋をします。

※このほか特別会員の個人には図録の進呈、法人には特別展招待状(5枚)送付などの特典があります。

来館者アンケートから

来館されたお客様から寄せられた感想をご紹介します。

◆二人の画家の個性がちょっと解り得た様で、背景にある歴史にも触れられておもしろかった。富士山の存在を強烈に感じえた事も今日来館して良かったと思いました。(50代女性「広重と北斎の富士三十六景展」)

◆寡聞ながら川村清雄の名も作も存じませんでした。日本画と洋画の合わさったものを見て、ああ、このような絵を描く人もいたのだなと、ひとつ知識を増やすことが出来ました。面白く拝見致しました。(20代女性「近代洋画の先駆者 川村清雄展」)

◆おぼけの絵がすこくうまかったです。ぼくではぜったいむりです。こんどまたいきたいです。(10代男性「浮世絵のお化け・妖怪展」)

◆お化けの絵はここで見るととてもユニモラスな感じがしましたが、夜、自宅一人で見たらけっこうゾクツとくるだろうなと思いました。昔の人はそのようにして夏の夜を涼んでいたのだらうと思うとおもしろかったです。(20代女性「浮世絵のお化け・妖怪展」)

◆昔の庶民の暮らし方や、旅の大変さなど日々の人々がいきいきと描かれて、現代にない良い物が沢山あったように思う。

(60代女性「江戸の旅 東海道五拾三次展」)

◆よくぞその地の特色を盛り込んで表現していると感じ。古き時代へとタイムスリップの感あり。(50代男性「江戸の旅 東海道五拾三次展」)

美術館整備基金募集

馬頭町美術館整備基金は、美術館の整備、美術作品の購入などに充てるために、平成9年3月に設けられました。

これまでに皆様からご寄付をいただいた貴重なご浄財は、平成14年3月現在で、総額137,452,628円となっております。

この基金のうち、平成11年度には5千万円を美術館建設費に、平成13年度には3千万円を歌川広重の肉筆画及び版画作品の購入に充てました。これらの作品は、特別展・企画展に活用され、来館者の皆様にも高い評価をいただいております。

これからも馬頭町の中核的文化施設としてまた八溝地域の広域的文化施設として、地域に愛され親しまれる美術館活動が展開できるよう努力してまいります。

今後とも、美術館活動がより一層充実したのになりますよう、特段のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

友の会見学会のお知らせ

江戸開府400年を記念して、このたびベルリン東洋美術館で発見された江戸の繁華街を克明に描いた絵巻「展覧勝覧」が里帰り。200年前の百万都市・江戸の盛り場にタイムスリップします。

●「大江戸八百八町展」

江戸東京博物館(東京両国)

●平成15年2月21日(金)

●交通/貸切バス

●集合場所/広重美術館前 駐車場

●集合時間/午前7時30分

●途中立ち寄り JR宇都宮駅

午前8時30分～9時頃

●会費/4,000円(昼食付)

●現地参加/2,500円(昼食付)

※参加ご希望の方は当館までお申し込み下さい。

下さい。

TEL 0287(92)1199

開館二周年記念特別展図録 「江戸の旅 東海道五拾三次」 販売中

開館二周年記念特別展図録・限定1,500部の内、1,000部を友の会より支出させていただいております。現在も販売中ですので、どうぞご覧下さい。

今後の展覧会予定

企画展「青木コレクション名品展」

●会期

平成15年1月5日(日)～2月2日(日)

昨年に引き続き、青木藤作氏が収集し、当館に寄贈されたコレクションの名品展を開催いたします。

青木コレクションは、歌川広重の肉筆画、日本画家久保田米偲や洋画家川村清雄らの作品、思想家徳富蘇峰の墨跡や資料、陶器、漆器、刀剣など多岐に渡っています。書籍や史料類を含めると総点数は4,200点に及び、寄贈を受けた当時はそのほとんどが未整理の状態でした。

企画展 青木コレクション名品展

平成15年1月5日(日)～2月2日(日)

ミュージアムトーク=1月11日(土)・1月25日(土) 当館学芸員

講演会=1月18日(土)「青木藤作とその時代」当館学芸員 折井貴恵

企画展 三人の広重展

2月6日(木)～3月9日(日)

ミュージアムトーク=2月8日(土)・3月1日(土) 当館学芸員

講演会=2月15日(土)「三人の広重」当館学芸員 市川信也

企画展 浮世絵師が描いた諸国名所絵展

3月14日(金)～4月13日(日)

ミュージアムトーク=3月15日(土)・4月5日(土) 当館学芸員

講演会=3月22日(土)「浮世絵 風景画の歴史」当館館長 稲垣進一



歌川広重
「山見立相模」
播磨龍山

美術館予定カレンダー (カレンダーと展示内容の帯の色が同じになっています)

2003年						
1						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	
2						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	
3						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					
4						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

● 休館日 (水曜日)
● 開館日 (月曜日、火曜日、木曜日、金曜日、土曜日)
● ミュージアムトーク (展示解説) (土曜日)
● 講演会 (無料) (土曜日)

コレクションの全貌は未だ明らかではないと言わなければならないでしょう。

この度は、コレクションの核となっている幕末・明治の浮世絵をはじめ、初公開の近代日本画や版本なども展示し、青木コレクションの成立と概要をご紹介します。

● ミュージアムトーク (展示解説)

当館学芸員 1月11日(土)・25日(土)

● 講演会「青木藤作とその時代」

当館学芸員 折井貴恵 1月18日(土)

企画展「三人の広重展」

●会期

平成15年2月6日(木)～3月9日(日)

歌川広重の系譜は五代目まで続きます

だが、浮世絵師として活躍したのは三代目までです。初代広重(1797-1858)は、幕末の江戸で名所絵を中心に描き、名所絵師として活躍しました。

二代広重(1826-69)は、師の抒情的な画風を継承し、江戸や諸国の名所絵を制作しましたが、晩年は広重家と離別し、横浜に在住して輸出用の茶箱に貼る絵の制作をしたため、茶箱広重と別称されました。三代広重(1842-94)は、明治時代の西洋風の建築や馬車鉄道、蒸気船、蒸気機関車などの開化絵を制作しました。

この度は初代から三代までの広重の作品を展示し、それぞれの画風や作画傾向の変化を紹介いたします。

● ミュージアムトーク (展示解説)

当館学芸員 2月8日(土)・3月1日(土)

● 講演会「三人の広重」

当館学芸員 市川信也 2月15日(土)

企画展「浮世絵師が描いた諸国名所絵展」

●会期

平成15年3月14日(金)～4月13日(日)

太平の世を謳歌していた幕末の江戸庶民は生活に余裕が生まれると、まだ見ぬ諸国の名所や名物に興味を持つようになり、浮世絵師もそのような要求に応えるべく、諸国の名所に行けない人々のために諸国名所を描きました。しかし絵師は現地で取材することはほとんどなく「紀行本」や「名所記」などの種本を利用し、各絵師の画風で描き、江戸の庶民を満足させました。

この度は江戸の庶民がどのような諸国の名所に興味を示したのか、また浮世絵師がどの種本からどのような構図を選び、自らの画風で表現したか、各絵師の作品をとおして紹介いたします。

● ミュージアムトーク (展示解説)

当館学芸員 3月15日(土)・4月5日(土)

● 講演会「浮世絵 風景画の歴史」

館長 稲垣進一 3月22日(土)

馬頭町広重美術館友の会「ユース」第4号

平成15年1月20日発行 編集発行/馬頭町広重美術館友の会
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭1-16-9
TEL 0287-621116 FAX 0287-627177
http://www.hiroshige.bato.tochigi.jp/